

第2学年道徳指導案

平成17年10月28日(金) 2校時

2年2組(男18名 女16名 計34名)

指導者 早川 貴子

サポート 小山田 順子(すこやかサポート)

- 1 主題名 かんしゃするところ(2-(4) 尊敬・感謝)
- 2 資料名 ふえを ふいて (出典 学研)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

第1学年及び第2学年の内容項目2-(4)は、「日ごろお世話になっている人々に感謝する。」となっている。これは、人間関係を基にした日常の生活において心がけなければならない基本的精神を述べたものであり、広く人々や生活に対する尊敬と感謝の念を持った児童を育てようとする内容項目である。主に、第3学年及び第4学年では2-(4)「生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちを持って接する。」に発展し、第5学年及び第6学年では2-(5)「日々の生活が人々の支えあいや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。」に発展していく。

よい人間関係を築くには、互いを認め合うことが大切だが、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。そして、それは、日々の生活、さらには自分が存在することに対する感謝へと広がり、生命尊重や人間尊重の精神を支えることになる。

この時期の児童は、小学校生活にも自信を持ち、家庭でも自分の身の回りのことを大体できるようになってくる。しかし、周囲の人の世話なしに生活していくことはできない。現在の社会は少子化傾向であり、子ども達は社会全体から過保護に育てられており、世話をしてもらうのが当然になってしまっている。児童は、世話をしてもらっているということに気が付かず、まして、自分たちを支えてくれる人たちの気持ちには思い至らないことも少なくない。そこで、身近で世話になっている人々の存在に気づき、感謝の気持ちが持てるように指導していくことが大切であると考ええる。

(2) 児童について

本学級の児童は、世話になっている人々に感謝の心を持つことが大切だということは理解をしている。しかし、何かをしてもらった時に素直にお礼の言葉を表現できる児童は少ない。また、幼児期に比べ自分でいろいろなことができるようになった自信と、世話をしてくれる人が身近な存在で、いつも当たり前のようにしてくれるので、世話になっているという意識を自分から持つことが難しい状況である。

そこでこのような児童に、身近で、世話をしてくれる人々が、自分達の健全な成長を願い、愛情をもって接しているということに気づかせ、その人たちの気持ちを深く受け止めさせ、感謝の心を育てていきたいと考える。

(3) 資料について

主人公の「ぼく」は、毎朝、交通指導をしているおじいさんに対して何の気持ちも持たないまま登校していたが、学校創立10年記念式で感謝状の贈呈が行われ、そこに現れたおじいさんを見て驚く。表彰式でのおじいさんのお話と、体育館いっぱい鳴り響く笛の音から、おじいさんに対する尊敬と感謝の気持ちを抱くことになるという資料である。自分たちのことを考えてくれているとは思わなかったおじいさんの気持ちを知ることで感謝の気持ちを持って接しようとする主人公の素直な気持ちは、児童が自分の姿を重ね合わせ共感をすることができ、価値に迫るのに適している資料であると考ええる。

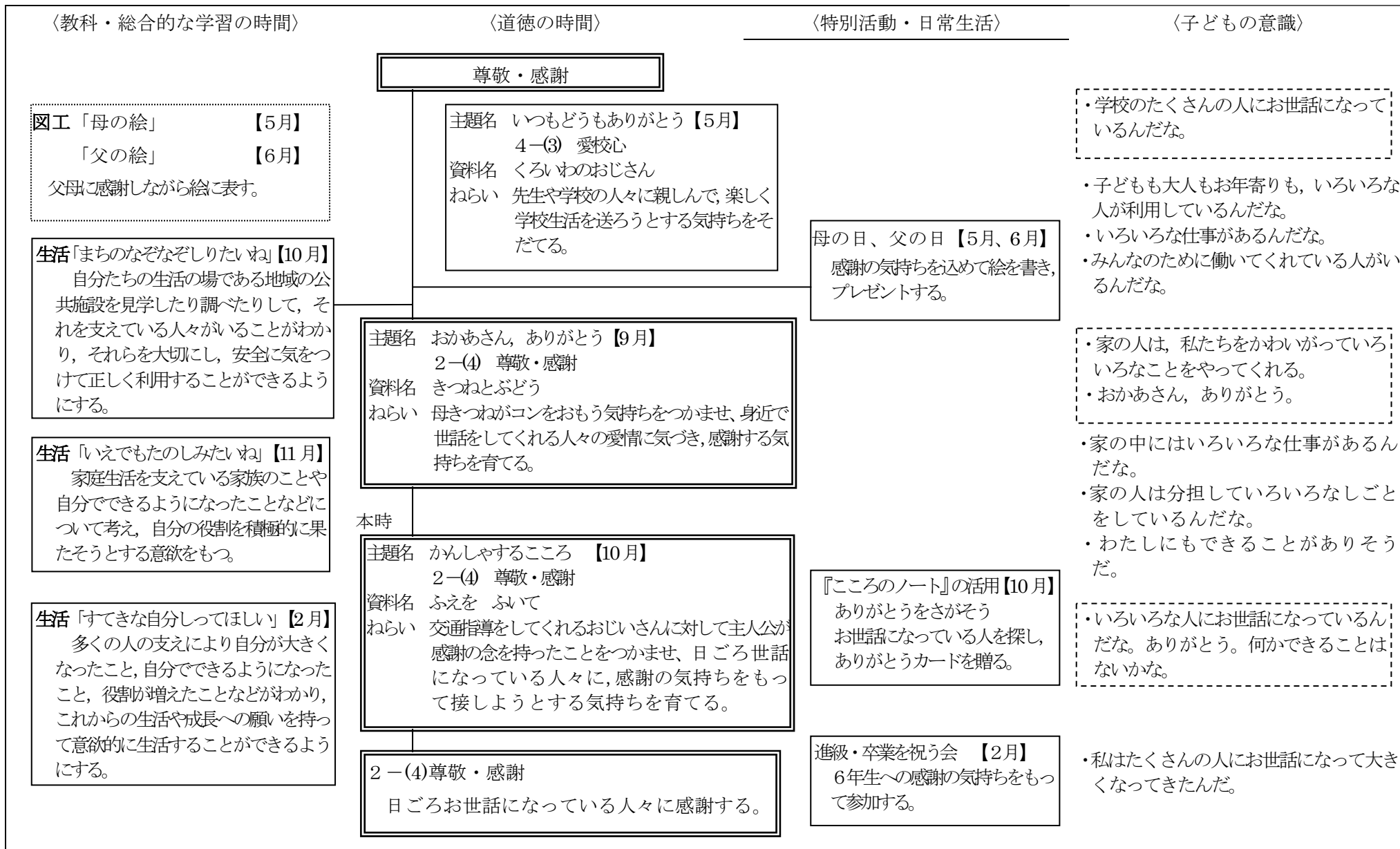
(4) 授業の構想について

「気づく」段階では、毎日お世話になっている地域の交通指導員さんの様子をビデオで見せ、資料へ興味を持たせたい。

「深める」段階では、地域の交通指導員さんへのインタビューを聞かせることにより、資料の子ども達の安全を願うおじいさんの思いと、自分たちの交通指導員の思いが同じ思いであることを理解させ、おじいさんの思いに応え、心を込めて感謝の拍手を送るぼくの心情をより深くとらえさせたい。

「見つめる」段階では、地域の交通指導員さんと同じように、いろいろな人たちがお世話してくれて生活が成り立っていることに感謝の気持ちがもてるようにし、これからの生活への意欲を持たせたい。

4 全教育活動における本時の位置付け



5 本時の指導

(1) ねらい 交通指導をしてくれるおじいさんに対して主人公が感謝の念を持ったことをつかませ、日ごろ世話になっている人々に、感謝の心をもって接しようとする気持ちを育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点や支援
<p>気づく 10分</p>	<p>1 交通指導をしてきている様子のビデオを見て話し合う。 ○指導員さんは、どんなことをしていますか。</p> <p>2 資料「ふえをふいて」を読み、学習のねらいを持つ。 ○感想を発表しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>力をこめてはく手をおくっているとき、「ぼく」の気持ちを考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・車を止めて向こうにわたしてくれる。 ・あいさつしてくれる。 ・おじいさんのおかげで、今まで事故がなかったんだね。 ・ぼくが、明日からあいさつしようと思ったのがよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートは、どの児童も授業に集中できるように支援する。 ・朝、登校する様子のビデオを見せて身近な交通指導員さんを意識させ、資料へ興味を持たせたい。 ・ぼくの感想をもとに、課題をたてる。
<p>深める 20分</p>	<p>3 「ぼく」の気持ちについて話し合う。 ○「さあ、気をつけてわたりなさい。」という青田おじいさんの言葉を、ぼくはどんな気持ちで聞いているのでしょうか。</p> <p>○だまって横断歩道をわたっているとき、ぼくはどんな気持ちになりましたか。</p> <p>○青田おじいさんのはなしを聞いて、ぼくはどんな気持ちでしょう。</p> <p>◎力をこめてはく手をするぼくは、どんなことを思っているでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日ごくろうさま。 ・安心して渡れるよ。 ・気をつけなくちゃ。 ・毎日だと、めんどくさいよ。 ・はずかしいな。 ・ぼくが言わなくても、だれかがあいさつを言うだろう。 ・雨の日も風の日も毎日立っていてくれたんだね。 ・おじいさんのおかげで、誰も事故にあわなかったんだ。 ・いつもぼくたちのことを考えてくれていたんだな。 ・おじいさん、ありがとう。 ・おじいさんのことが、わかったよ。 ・おじいさんのおかげで、事故がなかったよ、ありがとう。 ・これからも、ぼくたちを守っ 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日聞いているという状況を把握させ、ありがたいと思っている気持ちをださせたい。 ・あいさつをするのが恥ずかしいという気持ちと、おじいさんが立っているのが日常になっているということにふれる。 ・おじいさんが、表彰されるようなことをしていたとは思っていなかったことをとらえさせ、おじいさんが自分たちのことを考えていてくれたことに気づかせたい。 ・おじいさんの笛の音や言葉には、自分たちへの温かい思いがあることに気づき、おじいさんへの感謝の心が拍手に込められていることをとらえさせたい。

		<p>てね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつもありがとう。明日からは、元気にあいさつするよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の指導員さんにインタビューしておき、温かく見守ってくれている人の心に触れ、感謝の気持ちを持たせたい。
見 つ め る 13 分	<p>4 今までの自分を振り返る。 自分たちは、どんな人たちにお世話になっているか話し合う。</p> <p>○いつもどんな人たちにお世話になっているのでしょうか。</p> <p>○お世話になっている人たちにありがとうカードをかきましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家の人 ・保健の先生 ・お医者さん ・お店の人 <ul style="list-style-type: none"> ・おかあさん、いつもお世話をありがとう。 ・給食の先生、おいしい給食ありがとう。 ・指導員さん、毎日ありがとう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家の人、学校、地域でお世話になっている人たちを想起させたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返り、身近に自分たちのことを考えてくれている人たちがいることに気づかせ、ありがとうの気持ちを書かせたい。
ま と め る 2 分	<p>5 まとめをする。</p> <p>○日ごろお世話になっている人々に、感謝の気持ちを持ちながら生活していきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも、ありがとうの気持ちをもって生活しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これから、感謝の心を持ちながら生活していこうという意欲をもたせたい。

ふえを ふいて

力をこめてはく手をおくっているとき、
ぼくの気もちを考えよう。

青田おじいさん

ピー。「さあ気をつけてわたりなさい。」

絵

だまって

いへんろうさま。
あんしんだな。
気をつけなくちゃ。

めんどくさいな。
はずかしいな。
だれかがすればいい。

十年目のおいわいのしき

びっくり

おじいさんが、ステージへ

「いままで、ひと
りも、じこにあ
わなかったこと
が、なによりも
うれしいです。」

絵

すこいな。
おじいさんのおかげだよ。
いつも、ぼくたちのために。

ピー。

大きなはく手

おじいさんのことわかったよ。

毎日ありがとう。

これからも、まもってね。

明日からは、あいさつするよ。

絵

かんしやする、ハイ、ハイ

7 資料分析

(1) ねらい 交通指導をしてくれるおじいさんに対して主人公が感謝の念を持ったことをつかませ、日ごろ世話になっている人々に、感謝の心をもって接しようとする気持ちを育てる。

(2) 資料名 ふえを ふいて (出典 学研)

主な場面	ぼくが、青田おじいさんの笛を聞きながら登校する場面	ぼくが黙ってわたる場面	青田おじいさんの話を聞く場面	力を込めて拍手をする場面
把握すべき状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「さあ、気をつけてわたりなさい。」 ・青田おじいさんの笛は、雨の日も風の日も毎日、交差点でなりひびく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうしたの、元気を出して行ってらっしゃい。」おじいさんはこえをかけてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰式。ステージに上がったのが、青田おじいさん ・校長先生から賞状を渡される。 ・「今まで一人も事故にあわなかったことが、何よりもうれしいです。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピー。 ・体育館いっぱい、大きな拍手
主人公の心の動き	<p style="text-align: center;">感謝</p> <p style="text-align: center;">○安心</p>	<p style="text-align: center;">感謝</p> <p style="text-align: center;">○無関心 ○羞恥心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黙って横断歩道を渡る。 	<p style="text-align: center;">尊敬 感謝</p> <p style="text-align: center;">○感心</p> <p style="text-align: center;">○驚き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、びっくりしました。 	<p style="text-align: center;">尊敬・感謝</p> <p style="text-align: center;">○理解 ○決心 ○感動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力を込めて拍手をおくりながら、(明日から、青田おじいさんにあいさつするぞ。)と、思いました。
児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・気をつけなくちゃ。 ・安心して渡れるよ。 ・毎日、大変だなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくが言わなくても、だれかがあいさつを言うだろう。 ・はずかしいな。 ・毎日だとめんどうだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたちのことを考えてくれたんだな。 ・青田おじいさんのおかげで誰も事故にあわなかったんだ。 ・雨の日も風の日も立っていてくれたんだ。 ・毎日なんて、すごいなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明日からは、元気にあいさつするよ。 ・交通安全に気をつけるからね。 ・おじいさん、ありがとう。 ・おじいさんのことがよく分かったよ。
基本発問	○青田おじいさんの言葉を、ぼくはどんな気持ちで聞いているのでしょうか。	○だまって横断歩道をわたっているとき、ぼくはどんな気持ちになりましたか。	○青田おじいさんの話を聞いて、ぼくはどんな気持ちでしょう。	◎力を込めて拍手をするぼくはどんなことを思っているでしょう。